

営農情報 第1号

令和7年JA冬期懇談会資料をご活用ください。

令和7年3月21日
アルプス農協管内農業技術者協議会

“アルプス米1等比率94%以上”を確保するための「令和7年産の重点対策」のうち、「5月15日中心の田植えに合わせた育苗作業」による老化苗の防止や「初期茎数の確保」のための“健苗育成”が特に重要です。
計画的な育苗作業や適正な育苗管理により、健全な苗づくりに努めましょう。

<令和7年産の重点対策>

- ①5/15中心の田植えに合わせた育苗作業
- ②紋枯病防止の苗箱施薬の徹底
- ③初期茎数の確保
- ④生育ステージに応じた水管理
(特に幼形期前後の急激な葉色低下防止)
- ⑤適期2回(早生3回)防除の徹底
- ⑥適期刈取り



1 コシヒカリの育苗計画 参照ページp30~32

【表1 育苗計画の目安】

田植予定日	浸種日	播種日	育苗日数	出穂期
5/10	4/8	4/19	21日	7/31頃
5/15	4/17	4/26	19日	8/3頃
5/20	4/26	5/3	17日	8/7頃

出穂後の高温を避けるため、田植は5月15日を中心に行いましょう。育苗日数が長く、葉齢の進んだ老化苗を植えると、初期分けつの発生が少なくなるので、田植時期に合わせて浸種を開始しましょう。

【表2 育苗作業スケジュール 5月15日田植えの場合】

月日	作業	温度	作業ポイント						
事前準備	ハウス準備	 ハウスごとに温度計を準備	<ul style="list-style-type: none"> かん水装置を点検し散布ムラを調整 ハウスまわりに排水溝を設置 						
	機材消毒		<ul style="list-style-type: none"> 育苗資材等はイチバン(500倍液、瞬時浸漬)で消毒 						
	比重選水洗いネット詰め		<ul style="list-style-type: none"> 充実の悪い種籾を除去し、発芽率を向上させるため、表3 比重液の作り方(うち、水10Lの場合) 必ず比重選を行う 比重選後の種籾は、十分に水洗いする 種籾は種子ネットの7割程度を目安に、余裕をもって詰める <table border="1" data-bbox="1197 907 1428 985"> <thead> <tr> <th>比重</th> <th>硫安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.13</td> <td>2.5kg</td> </tr> </tbody> </table>	比重	硫安	1.13	2.5kg		
比重	硫安								
1.13	2.5kg								
4/17	種子消毒	水温 10~15℃  桶ごとに温度計を設置	<ul style="list-style-type: none"> モミガードC水和剤200倍液で24時間浸漬 表4 薬液の作り方(希釈倍率200倍) 薬液は種籾の2倍量を準備(表4) 2~3回上下に攪拌し、種子を完全に浸漬 <table border="1" data-bbox="1109 1030 1404 1097"> <thead> <tr> <th>種籾量</th> <th>水</th> <th>薬量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10kg</td> <td>20L</td> <td>100g</td> </tr> </tbody> </table> <p>※廃液の処理は業者に依頼する等適正に行い、河川等に流さない!</p>	種籾量	水	薬量	10kg	20L	100g
種籾量	水	薬量							
10kg	20L	100g							
	浸種	水温 10~15℃ 特に浸種初日は12.5℃を確保	<ul style="list-style-type: none"> 浸種期間の目安は、積算温度(水温×日数)120℃ 種子消毒の効果を高めるため、浸種開始後3日は水の交換をしない 浸種4日目以降は、酸素供給のため2日に1回は水を交換 種子籾の胚乳がアメ色で透明になったら、浸種完了 						
4/25	催芽	育苗器内温度 30℃	<ul style="list-style-type: none"> 催芽のバラツキを小さくするため、催芽中は1日に2~3回程度、袋を反転 催芽の程度はハトムネ程度(写真1) <p>写真1 催芽の目安</p>						
4/26	播種	 写真2 播種量の目安(5cm四方に70粒)	<ul style="list-style-type: none"> 種籾はしっかりと水を切る 播種量は乾籾120g(水切り籾150g)/箱(写真2) 苗箱施薬剤(ブーンレパード箱粒剤)を播種同時施薬する場合、規定量が確実に入るよう調整 覆土は苗箱上面より少なくし(0.5cm)、かん水を培土内部までムラなく浸み込ませる(図1)  <p>図1 播種イメージ(加工床土の場合)</p>						
	出芽	出芽温度 30℃	<ul style="list-style-type: none"> 事前に育苗器内のサーモスタットを点検 庫内の温度はこまめにチェック <p>出芽温度が高いと細菌病が発生しやすく、低いと出芽が遅れかつ不揃いになるので注意!</p>						
4/29	搬出・緑化	ハウス内温度 昼: 25℃以下 夜: 10℃以上 ※温度計は苗箱の横、苗の高さに設置	<ul style="list-style-type: none"> 芽の長さが1cm程度に揃ったら搬出 搬出後、覆土を落ち着かせるため、必ずかん水する 苗の白化を防ぐため、搬出直後は被覆資材で遮光し、緑化したら速やかに除去 著しい低温や荒天が予想される場合を除き、昼間は日射があれば搬出直後から換気を徹底する 						
5/1	硬化	※気温が5℃以下になると予想される場合はハウスを早めに閉める	<ul style="list-style-type: none"> 水分不足による葉ヤケ防止のため、床土の乾きに応じてかん水実施 こまめに温度計をチェックし、気温の高い日中は十分に換気する 著しい低温や荒天以外は、常時換気する ※日差しがあれば外気温が低くてもハウス内温度は上昇します! 強風時でも温度が高い時は、風下側のみ換気する 搬出後1週間頃からは、夜間も換気し、外気に慣らす 						
5/15	田植え								

播種から19日目

2 土づくりの徹底 参照ページp24~29



No.1 土づくりについて

高温等の気象変動に打ち勝つための「稲づくり」には、根を育てる「土づくり」が重要です。そのため、土づくり資材や有機物の施用と深耕により地力向上に努めましょう。

○土づくり資材の施用

管内の多くの圃場ではケイ酸分が不足しています。前年秋に施用しなかった圃場は、土づくり資材を必ず春に散布してください(表5)。

近年、ごま葉枯病の発生が増加傾向にあります。ごま葉枯病の発生は、ケイ酸、カリ、鉄分の不足により増加します。土づくり資材を散布し、病害虫に強い稲体にしましょう。

ごま葉枯病は、土壌条件や栽培環境と発病が密接に関連するため、土づくりを中心とする耕種的防除が重要です。



写真3 ごま葉枯病の病斑

表5 土づくり資材の施用量の目安

資材名	ケイ酸保証成分 (%)	標準施用量 (kg/10a)
粒状ケイカル	30	200
元気	24	100
シリカロマン	25	100
シンキョーライトP	66.1	100

○有機物の施用

腐植や加里が不足している圃場では、発酵鶏ふんを75~100 kg/10a 施用しましょう。施用した圃場は基肥窒素成分を1~2 kg/10a 減肥してください。

○深耕による作土深の確保

トラクタの速度を落とし、ロータリの回転数を遅くして、作土深15 cm以上を確保しましょう。特に秋耕しできなかった圃場では、ゆっくり丁寧に作業を行いましょう。

3 春のカメムシ被害低減対策

近年、早生品種のてんたかくだけでなく、中生品種のコシヒカリでも「部分カメ」による格下げが増加しています。そのため、水稲作付前からカメムシ対策に取り組みましょう。

○ケイ酸質資材の施用

籾殻のケイ酸濃度の上昇は、割籾の発生を防ぎ、カメムシによる斑点米発生を軽減します。土づくり資材を散布して、ケイ酸分を補給しましょう(表5)。



写真4 割籾

○カメムシ類が発生・増殖しにくい環境づくり

春先のふ化幼虫の餌となるスズメノカタビラやスズメノテッポウ等のイネ科雑草の発生を抑えるため、畦畔等の除草を行いましょう(表6)。初期のカメムシ類の発生が減り、以後の発生も抑えられます(図2)。

表6 春の畦畔等の除草管理とカメムシ類の発生密度低減効果

除草対策		越冬世代に対する密度低減効果		期待される主な効果
方法	処理のポイント	幼虫	成虫	
除草剤散布	4月下旬までに pasta液剤、 ザクサ液剤等の 茎葉処理剤を 散布する	○	○	① 幼虫は餌となるイネ科雑草が無く 生存できない ② 成虫の飛来や産卵がみられない
草刈り	穂が出ないように 刈り取る	△	○	① 幼虫の发育遅延や羽化率の低下 ② 成虫の飛来や産卵の抑制

○: 効果が高い △: 一定の効果がある

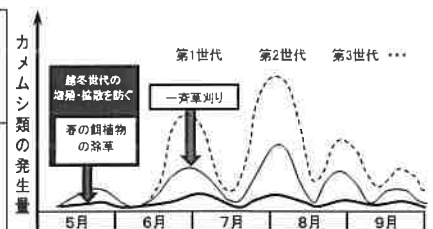


図2 カメムシ類の発生消長(模式図)

お願い・お知らせ

◎「生産記録簿兼GAPチェックシート」の記入・提出は必須事項です!

- ・JAでは記録内容に基づき、出荷・トレーサビリティに対応するとともに、次年度栽培基準の見直しに活用しています。
- ・安全安心な農作物の継続供給のために、**生産記録簿兼GAPチェックシートは確実に記載し、必ず提出する**ようお願いいたします。
- ・様式は、「JAアルプス」のHPからダウンロードできます。(TOP一農の情報—生産記録簿)

2025年産米
生産記録簿
兼GAPチェックシート



◎「電子メールによる営農情報の提供」を行っています。

- ・スマートフォンやパソコン等で簡単に登録でき、ご希望の情報を選択できます。
- ・右記のアドレスやQRコードから登録画面に進めます。



◎JAアルプスHPでは他にも役立つ農の情報をお届けしています。

「<http://ja-alps.com>」



~春の農作業安全運動展開中~ 3/1~5/31
農作業事故ゼロを目指して事故防止対策を徹底しましょう

< 次回の営農情報は4月18日頃発行予定です。 >